

■活用方策に関する意見概要等

1. 既存学習教材の関係機関からの意見

西宮市教育委員会事務局 (夙川物語：H21 年度)	学校教育課指導チーム 大和係長 学校教育課教育推進チーム 粟屋指導主事、教育研修課 乾係長
①これまでの活用状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 担当者が代わったこともあり、資料の存在が継承されていない。 ・ 学校教育課に電話での問い合わせがたまにある。 ・ 冊子は内容的な難しさから、小学3年生の対象ではあまり使われていない。 ・ 教育研修課では、3年生の副読本として「わたしたちの西宮」を配布しているが、現在「夙川物語」も参考に改訂作業を進めている。この担当者（5校）に活用方策を確認する。 	
②今後の活用方策 <ul style="list-style-type: none"> ● 教育委員会や小中学校への定期的なPR（4校：西宮浜小、大社小、北六甲台小、平木小） ● 小学校の図書室や地域の図書館などへの常設（4校：西宮浜小、安井小、大社小、北六甲台小） ● 小中学校(担当者)への電子データ CD の配布 (4校:安井小、大社小、北六甲台小、平木小) ● 学校や地域での年間行事での活用の検討と定着化（3校：西宮浜小、大社小、北六甲台小） ● 出前講座など、既存の関連活動を通じたPR（1校：西宮浜小） ● 副読本としての活用検討（1校：西宮浜小） ● 西宮市の教員専用のホームページにあるリンク集に六甲砂防事務所をのせ「六甲の川物語」を先生方にPRしていきたい。（教育委員会教育研修課） 	
③その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 有馬川物語は西宮市の3校が関係しており、完成冊子を提供してほしい。 	
芦屋市教育委員会事務局 (芦屋物語：H19 年度)	社会教育部 生涯学習課(文化財担当)竹村学芸員
①これまでの活用状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ 冊子作成メンバーに教育委員会や芦屋市の職員が入っていなかったことや、担当者が代わったこともあり、資料の存在自体を知らない人が多い。 ・ 委員の方が公民館セミナーで使用した話は聞いているが、その他の活用はあまり聞かない。 ・ 「六甲の川物語」のホームページにアクセスして活用したことはある。 	
②今後の活用方策 <ul style="list-style-type: none"> ● 小学校の図書室や地域の図書館などへの常設 ● 小中学校(担当者)への電子データ CD の配布 ● 学校の授業などは学校教育課が所管しており、そこへのアピールが必要 	
③その他 <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校の自由研究で、芦屋川の資料を求めて窓口に来る児童がたまにおり、今後そうした児童に紹介します。 	

2. 既存学習教材作成時の委員から意見

①これまでの活用状況

- ・活用したことはあるが、あまり活用していない。小学3年生の授業（2時間）で、冊子のコピーを配って質問を受けた。熱心で終われない状況だった。（夙川：矢田委員）
- ・老人対象の郷土史講座や月1回の定例会で関係部分を利用している。（夙川：山本委員）
- ・活用したことはあるが、あまり活用していない。現在、子どもたちの体験学習に関わるなどの活用機会がない。（芦屋川：寺田委員）
- ・夙川の話しをする時に参考になっているが、子どもの体験学習に関わる機会が少ないので、あまり活用できていない。（夙川：西宮自然保護協会）
- ・冊子やホームページは知っているが、あまり活用していない。（住吉川：灘五郷酒造組合）
- ・住吉川清流の会で活用した話は聞いたことがあるが、東灘区役所では担当が変わって、資料の存在が継承されていない。（住吉川：東灘区まちづくり課）
- ・「西宮の自然」と併せて、子どもたちの自然体験学習などで使用した。（夙川：古市委員）
- ・六甲山自然案内人の会での活動、グリーンサポート（環境学習）などで活用した。（香西委員）
- ・大学研究室の学生を連れて現地調査を行ったが、地元の小学生を中心とした活用展開が重要である。（共通：宮田委員長）

②今後の活用方策

- 教育委員会や小中学校への定期的なPR（4名）
- 各地域や六甲山での活動団体への定期的なPR（3名）
- 出前講座など既存の関連活動を通じたPR（2名）
- 年1回程度の定期的な連絡会議（六甲砂防、教育委員会、市など）（2名）
 - ・学校における担当者の明確化（名簿の作成と定期的な更新）
- 小学校の図書室や地域の図書館、公民館などへの常設（6名）
 - ・西宮の場合、図書館の他、総合教育センター、市の情報公開室などに設置しては。
 - ・各区のまちづくり課やエコプラザ、六甲山ガイドハウス、森林植物園などの施設へ冊子の見本（閲覧用）を置いてはどうか。
- 小中学校(担当者)への電子データ CD の配布（2名）
- 学校や地域での年間行事での活用と定着化（街歩き、遠足など）（2名）
- 夏休みの自由研究の題材としての活用検討（4名）
- 副読本としての活用検討（3名）

③その他

- ・学校の郷土学習で利用していると思うが、その情報が伝わってこない。学校でどのように活用しているのかの調査が必要では。（夙川：山本委員）
- ・区役所では「置き置き」として、置くことは可能であるが、図書館や公民館は教育委員会の管理であり、教育委員会を通じた活用がよいのでは。（住吉川：東灘区まちづくり課）

3. 事前ヒアリング時における各委員等からの意見

活用方策について（3地域での意見）

●教育委員会や小中学校へのPR

- ・ **神戸市全体、各区の校長会**が定期的であり、そこでの紹介が効果的で、**チラシやサンプル**を配布し希望を募っては。（妙法寺：志水委員、山田川：鷲尾委員、有馬川：稲垣委員）
（参考）神戸市の小学校（養護学校含む）全約170校（須磨区20校、北区18校、北神地域（有馬）15校、長田区14校、東灘区15校、灘区13校、中央区11校、兵庫区10校、垂水区25校、西区28校）
- ・ **各教科別に、近畿各県まわりもちで研修大会**が開かれる。ここでは様々な民間企業も含めて情報の紹介や交換がある。この機会を利用すれば効果的では。（妙法寺川：隈下委員）
- ・ **社会科の専門部会において、毎年5月に神戸市で総会**があり、その際に全ての流域のPRをしてはどうか。夏休みの社会科作品展などに題材として活用されるのでは。（有馬川：稲垣委員）
- ・ **神戸市総合教育センター**は神戸市教育委員会の指導課の下部組織であり、研修室では神戸市全体の研修に関する業務も行っている。（妙法寺川：志水委員）

●地元小学校を中心として活用

- ・ 山田小学校では6年生を中心に、**年1回地元を巡るオリエンテーション**を行っており、その際に活用させて欲しい。（6年生と職員分として冊子が30部あれば、**学年で繰り返し使う**。サブノートやマップも可能な程度を頂ければ学校保管として活用する。）（山田川：山田小校長）
- ・ 1学年分の冊子があれば、毎年繰り返し使うことができる。（有馬川：水野委員、藤井委員）
- ・ 冊子と関わりが少ない学校では、**職員室と図書室に置く程度**あればよい。（有馬川：稲垣委員）
- ・ 地元の有馬小学校では、**生徒全員でも約30人で全員に配布**しては。その他の小学校では図書室においては。（有馬川：藤木委員）
- ・ 内容は中学生の教材であるが、防災、文化、地域の歴史が取り上げられており、**1学年の部数（50冊程度）あれば、教科書として是非利用したい**。（山田川：谷上小校長）
- ・ 総合学習などで先生側での活用が有効では。図書室、3年～6年の各学級に1冊あれば有効に活用できるのでは。（山田川：山口委員）
- ・ **地元の小学生を中心**とした活用展開が重要である。（共通：宮田委員長）

●各地域や六甲山での活動団体へのPR

- ・ 青少協など**ハイキングを行っている団体**にも冊子を配っては。また、山田川を美しくする会でも冊子を利用した活動やPRが考えられる。なお、**参加団体に1冊**（自治会中心約40団体、50冊程度）あれば有効に活用できる。（山田川：前中委員）
- ・ 小学校3年生を対象とした「**グリーンサポート（環境学習）の研修会**」で紹介をしては。**グリーンベルト事業参画企業**への配布も考えられる。また、**自然案内人の会の観察会**等で冊子の紹介も可能で、その際、チラシがあれば話がしやすい。（共通：香西委員）
- ・ **NPOや環境団体への配布**が中心となる。須磨での関連団体は11団体である。妙法寺川を美しくする会が事務方となる「さくらまつり」に間に合えば配布しては。（妙法寺川：田中委員）
- ・ 各地域との繋がりが深い**連絡所の所長会議**で紹介しては。（有馬川：藤木委員）

活用方策について（3地域での意見）

●図書館や公民館などへの閲覧用冊子の設置

- ・むやみに配布しても効果は薄いですが、目に触れる機会を増やす必要がある。（共通：香西委員）
- ・市民図書館の他、チラシを作成して、連絡所などにも置いては。（山田川：前中委員）
- ・市や区の担当は変わってしまうので、図書館や小中学校に配るべき。また、散策マップやサブノートは、観光案内所や連絡所に置いては。（有馬川：藤木委員）
- ・図書館の他、森林植物園にも置いては。園長の承諾済み。（有馬川：藤井委員）

●その他

- ・各地域での活用と併せて、六甲山全体としての活用展開の視点も必要である。具体的な施策として、ジオパークの指定に向けた取り組みが挙げられる。（共通：宮田委員長）
- ・印刷物としての冊子が一番効果的であるが、改訂版はCDを配布することで良いのでは。（妙法寺川：志水委員）
- ・以前、国の港湾関連の連絡調整会議に出席したことがある。その会は毎年行われていた。そのような機会を持つことは、活用を図る上でも重要では。（有馬川：稲垣委員）